

ドラゴンボールFate ～ 反逆の転生者の物語～

星の御子

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

運命とはなんだと思う？

人の力ではどうすることもできない決められた道筋？

それとも困難を乗り越え前に進むことで手に入れることができる希望？

捉え方は人それぞれだ。

これはそんな数奇な運命に導かれた

反逆の騎士の姿と力を得て転生した

1人の”元”青年の

『友情』と『愛』の物語

仲間と紡ぐ

『希望』の物語である。

この小説は題名の通り、国民的漫画『ドラゴンボール』と『Fateシリーズ』のクロスオーバー作品となっております。

先の文から分かるように、主人公の青年がモードレッドの容姿と能力を得てドラゴンボールの世界に転生するお話となっております。

「新しい小説書くより血界戦線の小説更新しろ」と思っている方もいると思いますが、最近ネタが思い付かないので息抜きもかねてこの小説を作りました。

因みに作者は最近ドラゴンボールにハマったばかりなので、ドラゴンボールについて調べながら小説を書いてます。

なので可笑しな所があったらコメント欄にて報告してくださいと嬉しいですよ。
最後にこの小説を読むに当たったの注意点は、

・ドラゴンボールの時間軸は力の大会の1週間後ごろです。（尚、現在公開中の映画の内容は一切含まれないので、ご了承ください。）

・主人公が性転換している。

・人造人間17号（以下17号）は原作では奥さんと子供が1人、更に養子が2人居

るらしいのですが、この小説では17号は独身です。

・上記の説明から分かるかもしれませんが、オチは17号です。

以上の事が平気だと思おう方、せっかくだから見てやるよと思つた方はどうぞ話にお進みください。

目次

E p i s o d e 0 反逆の騎士の目覚め

1

Episode 0 反逆の騎士の目覚め

??side

ゴポリ…

ゴポリ…

『…何処だ、ここは…』

何も見えない…

何も聞こえない…

息も出来ない…

息…(?)』

『ブツハア?!』ザバア!

あつぶねええ!!危うく溺死するところだった!水に顔を浸けたまま寝て溺死するなんて笑い話にもなんねえ!!

……つて、あり？

『……何処だ？』

オレの目の前には先程まで顔を浸けていた水……いや、川がサラサラと流れている。周りは背の高い木が生え、木漏れ日が射す様子はとても美しく神秘的だ。

『すっげえ……』

まさか現代の日本にこんな神秘的な場所があつたなんて……ん？

『てかオレ、いつの間にかこんなところに来たんだ？』

そう、オレはこの場所を知らないしどうやってここに来たのかもわからない。

『えーつと……（取り敢えず状況を整理しよう）』

オレはどこにでもいる普通の学生、ここまでは分かる。

それでオレは今日も学校に行つて昼休みに親友と屋上でFateの推しキャラについて話して、そんなでもつて……

『……あれ？』

それからどうしたんだっけ？

ダチと話をした後の記憶が無い。

いやそれどころか…

『オレの名前…何だっけ？』

自分の名前が思い出せない。

それだけじゃない。

家族の顔や名前。

学校の先生やダチの名前。

一番の親友の名前。

それら全てが思い出せない。

『なっ、何で思い出せないんだよ…!?』

オレは頭を抱え、なんとか思い出そうとするが一向に思い出せない。

しばらく頭を抱えてウンウン唸っていたがふと視線を川に落とし、

絶句

『えっ…？』

オレは目を見開き川辺に座り込むと自分の顔を触った。

『嘘だろ…』

水面に写っているオレの姿は…

金色に輝く髪

翡翠を思わせる深緑の瞳

身に纏うのは灰色に赤いラインや模様が刻まれた鎧

そして腰に差されている一振の剣

『…は、ははっ。マジかよ神様…』

そう…今のオレの姿は

F a t eシリーズに出てくるサーヴァントでありオレの推しキャラ

モードレッドそのものの姿だった。

あー、くそっ

『笑えねー……!』

T o b e c o n t i n u e d . . .

??のステータスを更新します…

更新に成功

ステータスを表示します

【真名】:??↓モードレッド

【クラス】:??↓セイバー

【種族】:??↓人間

【属性】：?? ↓混沌・中庸

【能力】：筋力 ?? 耐久 ?? 敏捷 ?? 魔力 ?? 幸運 ?? 宝具 ??

↓筋力 ?? 耐久 ?? 敏捷 ?? 魔力 ?? 幸運 ?? 宝具 ??

情報が不十分です

新たな情報を取得してください

物語を記録しますか？

▶?はい

いいえ